

令和2年度（2020年度）第2回
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会 議事概要

日 時：令和3年（2021年）3月18日（木）10：00～12：00

方 法：Zoom ミーティングを利用したオンライン会議

場 所：道庁7階 農村設計課横会議室

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

次 第：別添「次第」のとおり

議 題：議題1 第4期事業実施計画（令和2年度～令和6年度）について

議題2 令和3年度事業計画（案）について

議題3 地域活動支援事業 令和3年度（2021年度）活動計画について

議題4 その他

議 事：

（1）議題1 第4期事業実施計画（令和2年度～令和6年度）について

ア 事務局から資料3に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

山本座長）表の「目標値」は、5カ年での目標値という理解で良いのか。また、「外部有識者の所見」は、我々の意見を案として記載しているということか。

事務局）いずれもそのとおり。「外部有識者の所見」については、本日いただいた意見も踏まえた事務局案を後日メールでお送りし、それを確認・修正いただく形を取りたいがどうか。

委員一同）問題ない。

山本座長）指導員数については、辞任者がいた場合、マイナス表記はするのか。

事務局）新規委嘱数を記載するものなので、マイナス表記はしない。

（2）議題2 令和3年度事業計画（案）について

ア 事務局から資料4に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

山本座長）研修事業については、今年度出来なかったものを次年度にスライドで構わないと思うが、地域活動支援地区との意見交換については、対面にこだわらず、オンラインでの開催も御検討いただきたい。

事務局）現地の雰囲気を感じることも重要なので、理想としては現地での開催としたいが、状況次第ではオンラインも検討したい。

山本座長）現状、新規地区の掘り起こしはどのようにしているのか。また、強化期間とは何か。

事務局）各振興局や普及センターの集まる会議で掘り起こしの依頼を行っており、

この方法で採択となっているのが、上ノ国地区や由仁地区。また、農泊や農村ツーリズムに関心のある地域で、その段階まで至っていない、地域での合意形成から始めるような地域に本事業の紹介をしており、この方法で採択となったのが本別地区。更に農泊の広域連携の手段として紹介し、採択となっているのがオホーツク広域。

次年度以降は、強化期間として現地研修の前後で農村設計課と振興局担当で現地を訪問し、地域の掘り起こしや事業紹介を行うこととしている。

(3) 議題3 地域活動支援事業 令和3年度(2021年度)活動計画について

ア 事務局から資料5に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

[厚床地区]

山本座長) 小林委員から補足があれば。

小林委員) 表立った活動は出来なかったが、会館の改修も踏まえた現地でのアンケート調査を、町内会役員だけでなく地域の若い世代等にも実施することができ、活動も広がりつつある。次年度は従来の活動に加えて、新たな活動を期待したい。

山本座長) アンケート調査は小林委員が中心で行ったのか。

小林委員) 私とゼミの学生7名ほどで延べ5日間、1人90分で70名ほどにアンケート調査を行った。

[上ノ国地区]

小西委員) 令和3年度に実施予定の「地元学校とのさやえんどう利活用連携活動」では12万円が計上されているが、どれくらいの規模で実施予定か。

事務局) 具体的には確認できていないが、小学校での食育活動の他、上ノ国高校との連携を実施し、絹さやえんどう以外の食材も使用するため余裕を見て12万円で計上をしている。

山本座長) 支援の最終年なので、アンケート調査など活動の効果検証をしても良いと思うが。

事務局) 承知した。地区にその旨伝えて活動内容を検討してもらい、次回の委員会で回答できるようにしたい。

山本座長) レシピを作成・配布するとのことだが、この時世なので、冊子だけでなく、役場やJAのホームページなどでデータでの配布も検討してはどうか。

事務局) 承知した。また、別件になるが、「cookpad」の北海道公式キッチンのページに上ノ国地区のさやえんどうレシピを掲載すべく進めているところ。

山本座長) そのページには事業名等が出るのか。

事務局) レシピの提供元は公開される。

[由仁地区]

山本座長) 令和2年度に実施したことは何になるのか。

事務局) 活動実績は6月の委員会でお知らせする予定のため、詳細は未確認。

山本座長) 由仁地区も当初の予定より1年間延長するのか。

事務局) 次年度で当初目標を達成できるのであれば終了するし、そうでないのなら次年度のうちに1年延長の申し出があると理解している。

山本座長) 次年度の活動は、令和2年度にやれなかったことをスライドでやるのか、令和3年度に予定していたことをやるのか、「WEAVE」で検討しているはずなので、そこから確認できるのではないか。

事務局) 御指摘のとおりなので、確認をしたい。

山本座長) 今申し上げた点について精査されたものを次回の委員会を出していただくか。

事務局) 承知した。

[オホーツク広域]

山本座長) この地区の活動参画団体はいくつあるのか。

事務局) 7つあり、それぞれが教育旅行や農泊の協議会なので、その中に各市町村の担当者や体験コンテンツの事業者などがいる状況。会議には実務担当者が出席し、その方の活動をサポートする形となっている。

山本座長) 市町村の代表者が集まって進めているということか。

事務局) 役場の担当者が出席しているのは、教育旅行の事務局を町が務める津別町と美幌町。他は体験コンテンツ等を提供する事業者や観光協会に関する活動を行う地域おこし協力隊の方などが出席している。

山本座長) 関係機関・団体に市町村が入っておくべきではないのか。

事務局) 市町村は、活動参画団体の協議会に含まれているので、記載をしていない。一市町村だけでは農泊での受入日数をなかなか伸ばせないが、事業者に横連携を実施するきっかけがないとのことから、本事業でサポートをしているところ。

小林委員) 本年度、コロナ禍で意識醸成地区として、どのような活動に取り組んできたのか実績があれば教えてもらいたい。

事務局) 昨年6月に第1回の組織上げのための会議を開催し、それを含め年4回、活動計画を作成するための会議を実施した。また、会議と合わせて、防疫研修会やガイド育成研修会を実施してきた。

小林委員) 承知した。また、山本座長からもあったが、関係機関・団体が分かりづらいので、具体的に分かるようにしてもらいたい。

[本別地区]

事務局) 本別地区については、5つの「らぼ」を立上げ、活動の体制までは整っているが、コロナ禍で活動計画が仕上がっていない状況。活動内容としては、6月・8月・10月にミーティングを実施。10月には、本別町の歴史を学ぶため、帯広百年記念館の方を講師に招いて勉強会を実施し、50名ほどの参加があった。また、11月には、小西委員に講師を務めていただき、山本座長にご参加いただいたオンライン研修会を実施した。

小西委員) 本別地区の方は熱心だったので、機会さえ作れば、活動計画も作成できている。

(4) 議題4 その他

ア 事務局から資料6に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

事務局) 地域活動支援事業の支援対象経費として、道外の先進地視察に関する問い合わせが多いことから、人数制限を設け、帰着後に視察報告を実施することを条件に旅費を支給することを検討している。

山本座長) メンバー全員の旅費支給が難しいのは理解するが、1地区いくらまでという上限を設定する形にはできないか。

事務局) 道の旅費の規定上、旅行者に旅行命令をかけるため、金額の上限を設定するような旅費の支出は難しい。

小林委員) 地域の意識醸成のためには、皆で同じものを見ることも必要だと思うので、活動団体から2名と決めず、もう少し柔軟な表記にできないか。代表者2名を決められなくて、視察に行かないということになったり、そもそも代表となる方は地域づくりに対する意識が高く、その他のメンバーが行けないとなると、支援対象経費の拡充の意義も薄れる。

事務局) 表記の方法については、再度検討したい。

